

KVK 自閉式サーモスタット式シャワー・混合栓 KF190・KM190 〈各仕様共通〉 施工説明書

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

<p>湯水を逆に配管しないでください。給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>スチームルーム及び乾燥室にご使用の際は相談ください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>温度調節ハンドルの目盛が、吐水温度と合っているか確認してください。</p> <p>禁止</p> <p>取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならず、やけどをすることがあります。</p>
<p>ストレーナの清掃は止水弁又は元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。</p> <p>禁止</p> <p>ストレーナをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため、解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

注意

めっき部品は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

凍結が予想される際は、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。

凍結防止しないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A= (給湯機の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42℃ ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯機との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② シャワー吐止ハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯機の給湯温度は、必要とする吐水温度より10℃以上高くしてください。なお、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は、改造(加工及び接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称

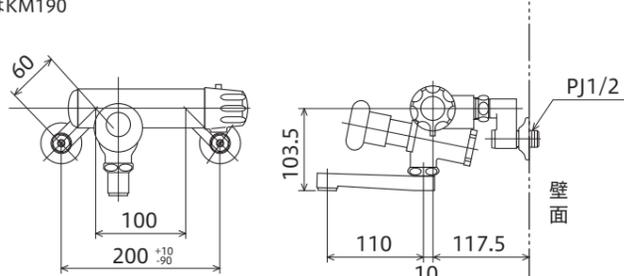
KF190	KM190
<p>シャワーヘッド シャワーホース シャワー吐止ハンドル 本体 吐水口吐止水プッシュハンドル 吐水口 ストッパー解除ボタン 温度調節ハンドル</p>	<p>キャップ 本体 吐水口吐止水プッシュハンドル ストッパー解除ボタン 温度調節ハンドル 吐水口</p>

寸法図 / 分解図

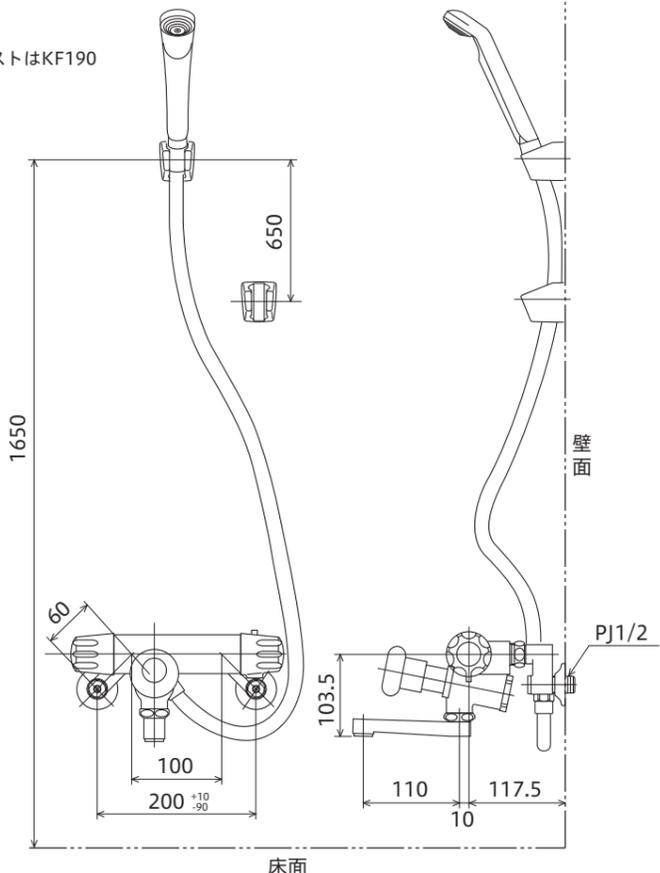
部品の形状は仕様によって異なる場合があります。

寸法図

[混合栓仕様] イラストはKM190

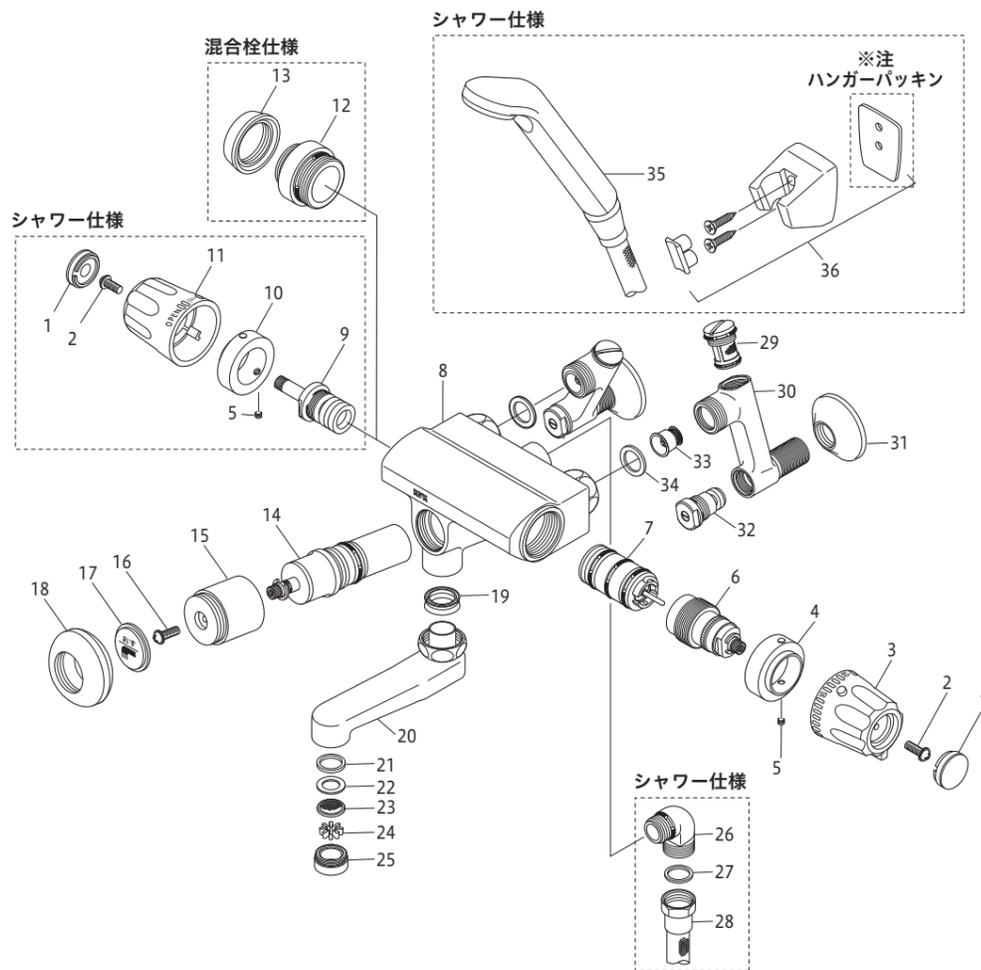


[シャワー仕様] イラストはKF190



分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



1 キャップ	11 シャワー吐止ハンドル	21 パッキン	31 送り座
2 ビス	12 ふた	22 座金	32 止水弁
3 温度調節ハンドル	13 キャップ	23 ストレーナ	33 逆止弁
4 ストッパーガイド	14 自閉カートリッジ	24 水切り	34 パッキン
5 ビスB	15 プッシュハンドル	25 整流器キャップ	35 シャワーヘッド
6 温調ボンネット	16 ビス	26 シャワーエルボ	36 シャワーハンガー
7 サーモスタットカートリッジ	17 表示キャップ	27 パッキン	
8 本体	18 固定キャップ	28 シャワーホース	
9 シャワー止水ボンネット	19 Xパッキン	29 ストレーナ	
10 表示リング	20 吐水口	30 ソケット	

※注
ハンガーバックシンは仕様により同梱されていない場合があります。

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミを取り除いてください。

2 ソケットと本体の取り付け

- ソケットのネジ部にシールテープを巻いて、配管に垂直にねじ込みます。
【お願い】・図1のように湯側と水側のパッキン面は、段違いにならないようにしてください。(シールテープの巻き数にて調節してください。)
・図2のように湯側ソケットと水側ソケットは「ハ」の字にして取り付けてください。
- ソケットと本体を接続します。
【△注意】締め付けは、六角の二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

〈図1〉上から見た図 〈図2〉前から見た図

3 シャワーホースと吐水口の接続

- シャワー仕様のみ
シャワーホースをシャワーエルボに接続します。
- 吐水口を吐水口接続部に接続します。
締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。
【お願い】
締め付ける際は傷が付かないよう、あて布等をしてください。

4 ステッカーの貼り付け
使用方法ステッカーを見易い位置に貼り付けてください。

5 ページ

取り付け後の点検と清掃1

通水確認
【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ清掃のお願い
ソケットと吐水口のストレーナにゴミ等が詰りますと、吐水量が減ったり、希望する湯温にならない場合があったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。
➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

サーモスタットカートリッジの清掃方法
サーモスタットカートリッジにゴミ、水あか、汚れ等が付着しますと、吐水量が減ったり、温度調節がうまくできなくなったりしますので清掃してください。
【△警告】
サーモスタットカートリッジの清掃は、止水弁又は元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。サーモスタットカートリッジをいきなりはずしますと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
① 湯水両側の止水弁をしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
② キャップをはずし、ビスをゆるめて温度調節ハンドルを取りはずします。
③ ビスBをゆるめ、ストッパーガイドをはずします。
④ 温調ボンネットとサーモスタットカートリッジを取りはずします。
⑤ サーモスタットカートリッジをブラシで水洗いします。
清掃後は上記の逆の順に組み立ててください。
【お願い】取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。

流量の調節方法
流量の調節は右記の方法で行ってください。

6 ページ

取り付け後の点検と清掃2

温度調節ハンドルの設定方法
工場出荷時に温度調節をしていますが、取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならない場合があります。温度調節ハンドルの目盛が吐水温度とズれている場合、温度調節ハンドルをはめ直してください。
【はじめに確かめてください】
・止水弁を全開にしているか確かめてください。
・ストレーナにゴミづまりがないか確かめてください。
・給湯温度(60℃以上)の湯が給湯できているか確かめてください。※推奨温度は約60℃です。

- 全開吐水で目盛に関係なく40℃のお湯が出る所まで、温度調節ハンドルを回します。
- キャップをまっすぐに引き抜いてはずし、ビスをゆるめて温度調節ハンドルを回転させないように取りはずします。
- 温度調節ハンドルの「40」の目盛を表示ポイントに合わせてはめます。
- ビス、キャップにて固定します。

【お願い】取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。
【△注意】目盛は、温度表示ではありません。目盛は、温度調節の目安としてください。

自閉カートリッジの清掃方法
吐水口からの吐水量が少ない、または湯水が止まらない場合は自閉カートリッジを清掃してください。
【△警告】自閉カートリッジの清掃は、止水弁又は元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。自閉カートリッジをいきなりはずしますと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- 湯水の止水弁[2カ所]又は元栓をしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- 固定キャップ、表示キャップをはずします。
- ビスをゆるめ、吐水口吐水プッシュハンドルをはずし、自閉カートリッジを取りはずします。
- 自閉カートリッジをブラシで水洗いします。
清掃後は上記の逆の順に組み立ててください。

④ 清掃歯ブラシなど

湯水が止まらない場合は、さらに自閉カートリッジのスピンドルを数回押ししてください。吸水口からピンが出て清掃できます。

7 ページ

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度確かめてください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
湯水が止まらない	自閉カートリッジにゴミ等が詰まっていませんか	自閉カートリッジを清掃する	7ページ 「自閉カートリッジの清掃方法」
	(シャワー仕様のみ)止水直後シャワーヘッドから落ちる水滴は、シャワーヘッド内の残留水です。故障ではありません		—
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	6ページ 「流量の調節方法」
	ストレーナにゴミ等が詰まっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ 「ストレーナの清掃方法」
	自閉カートリッジにゴミ等が詰まっていませんか	自閉カートリッジを清掃する	7ページ 「自閉カートリッジの清掃方法」
	吐水口吐水プッシュハンドルの設定は合っていますか	吐水口吐水プッシュハンドルの設定を確認する	取扱説明書6ページ 「吐水口吐水プッシュハンドルの吐水量調節方法」
高温しか出ない	ガス給湯機と組合せてご使用の場合、能力切替式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯機の能力を適正能力にセットする	—
	ストレーナは凍っていませんか	ストレーナにぬるま湯をかける	—
	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	6ページ 「流量の調節方法」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	6ページ 「流量の調節方法」
	必要とする吐水温度より、給湯機の給湯温度を10℃以上上げる		—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	6ページ 「流量の調節方法」
	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	ストレーナにゴミ等が詰まっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ 「ストレーナの清掃方法」
吐水が飛び散る	温度調節ハンドルの設定は合っていますか	温度調節ハンドルの設定を確認する	7ページ 「温度調節ハンドルの設定方法」
	ストレーナにゴミ等が詰まっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ 「ストレーナの清掃方法」
シャワーの吐水状態が不安定(シャワー仕様のみ)	熱源の温度を下げ(約60℃)、水側止水弁をしぼるにより、改善される場合があります		—

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

8 ページ